

2027年3月期第1四半期 決算説明資料

2026年8月10日 **Sanrio**
© 2026 SANRIO CO., LTD. 著作 (株)サンリオ





2027年3月期Q1業績

- 2 27/3期Q1決算サマリー 連結損益計算書(PL)
- 3 27/3期Q1決算サマリー セグメント数値
- 4 業績推移(売上高・貢献利益)
- 5 27/3期Q1日本セグメント実績(売上高・貢献利益)
- 6 27/3期Q1実績(日本)
- 7 27/3期Q1アジアセグメント(売上高・貢献利益)
- 8 27/3期Q1実績(中国)
- 9 27/3期Q1北米・南米セグメント(売上高・貢献利益)
- 10 27/3期Q1実績(北米)
- 11 27/3期Q1欧州セグメント(売上高・貢献利益)
- 12 27/3期Q1実績(欧州)
- 13 連結販管費の推移
- 14 連結貸借対照表
- 15 27/3期通期連結業績見通し(連結P/L)



27/3期Q1決算サマリー 連結損益計算書(PL)

- 27/3期Q1の連結売上高・営業利益は、Q1としては過去最高を記録。
- グローバルで幅広いキャラクターの浸透とライセンスによる活用が進む。キャラクターが採用される商品カテゴリーの拡張も進展。
- 27/3期Q1の売上高は、通期業績予想に対して概ね計画どおりに進捗。
- 営業利益については、日本を中心に販管費予算の一部がQ2以降に期ずれすることから、想定よりは若干上振れ。通期業績見通し(売上高2,298億円(YoY+18.4%)、営業利益895億円(YoY+15.0%)、調整後営業利益888億円(YoY+13.2%))に変更なし。

単位:百万円

	26/3期Q1	27/3期Q1	増減率
売上高	43,097	52,035	+20.7%
売上総利益	34,765	40,683	+17.0%
売上総利益率	80.7%	78.2%	△2.5pt
営業利益	20,198	22,435	+11.1%
営業利益率	46.9%	43.1%	△3.8pt
調整後営業利益	18,126	22,077	+21.8%
EBITDA	20,829	23,348	+12.1%
EBITDAマージン	48.3%	44.9%	△3.4pt
経常利益	20,205	22,624	+12.0%
親会社株主に帰属する四半期純利益	14,190	15,516	+9.3%

注) 百万円未満切り捨て、%表示単位以下四捨五入。



27/3期Q1決算サマリー セグメント数値

単位:百万円

	26/3期 Q1	27/3期 Q1	増減率
売上高	43,097	52,035	+20.7%
① 日本	31,600	38,477	+21.8%
② アジア	11,749	13,563	+15.4%
③ 米州(北米・南米)	6,493	7,240	+11.5%
④ 欧州	2,207	3,396	+53.9%
貢献利益	18,126	22,077	+21.8%
① 日本	3,822	5,486	+43.5%
② アジア	8,085	9,194	+13.7%
③ 米州(北米・南米)	4,891	5,236	+7.1%
④ 欧州	1,507	2,361	+56.6%

為替レート	26/3期Q1	27/3期Q1
米ドル/円	152円/USD	156円/USD
ユーロ/円	160円/EUR	183円/EUR
人民元/円	20.9円/CNY	22.5円/CNY

注) 金額表示単位未満切り捨て、%表示単位以下四捨五入。

注) 各セグメントの集計期間は次の通り。日本:2026年4-6月、海外:2026年1-3月

日本

貢献利益
YoY+43.5%

- ・物販事業は、**拡大するキャラクター人気を背景に、サンリオオリジナル商品の戦略的な展開**に加え、原宿店などの旗艦店を含む既存店全体の業績拡大が寄与。
- ・ライセンス事業は、家庭雑貨カテゴリを中心に**多様なキャラクターの起用が進展し、ライセンスあたりの収益性が向上**。

アジア

貢献利益
YoY+13.7%

- ・中国では、**物販事業において新規店・既存店ともに好調に推移し、業績拡大に寄与**。
- ・ライセンス事業は、**カテゴリ拡張の進展**を背景に、実力ベースで好調継続。
- ・その他アジア地域も複数キャラクターの人気向上により着実に拡大。

米州

貢献利益
YoY+7.1%

- ・売上高は、**関税影響が続く事業環境への適応が進展し業績回復に向けて前進**。貢献利益は、事業基盤の強化に向けた人件費等の販管費増も、円安効果もあり増益。
- ・玩具、アパレルカテゴリの伸長に加え、『HELLO KITTY AND FRIENDS』を中心とした**キャラクターの起用が進展**。

欧州

貢献利益
YoY+56.6%

- ・グローバルブランドによる幅広い**キャラクター起用にに向けた取り組みを継続し、特にアパレルカテゴリが業績拡大に寄与**。
- ・カテゴリ拡張と新規市場の開拓に向けた取り組みは順調に進捗。



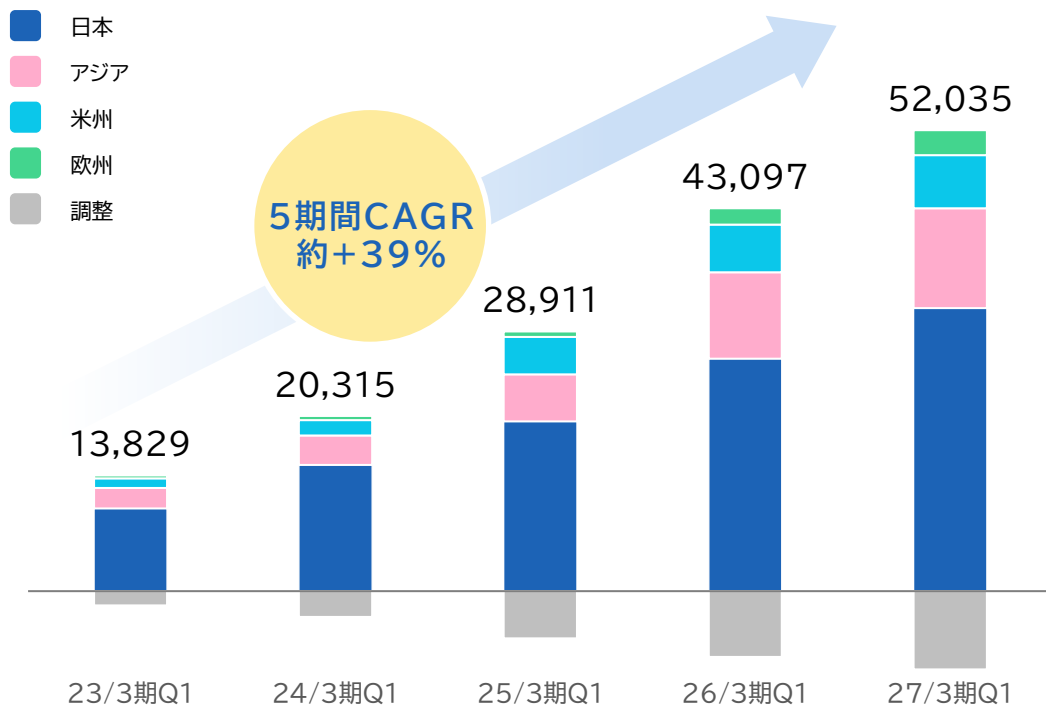
業績推移(売上高・貢献利益)

Q1として6期連続の増収増益で、ともに過去最高を更新。

複数キャラクターの認知度向上を背景に各地域で業績拡大が継続。欧州の存在感が増し、よりバランスの取れた地域ポートフォリオへと進化中。

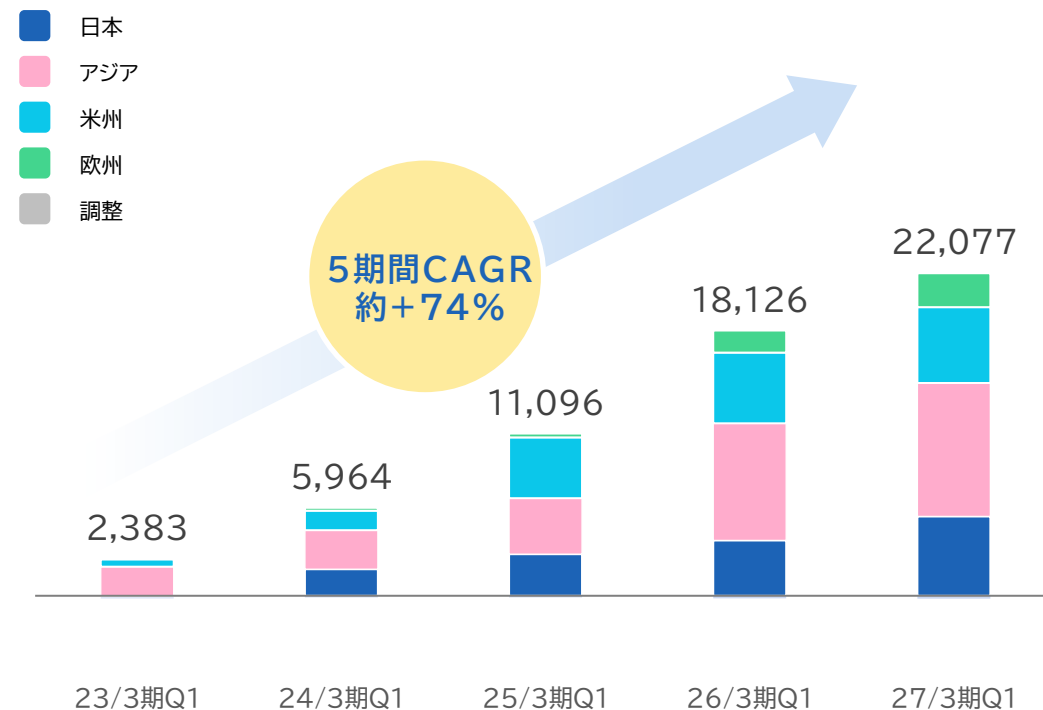
売上高

単位:百万円



貢献利益

単位:百万円



注) 百万円未満切り捨て

貢献利益: 海外個社の営業損益に売上原価(本社へのロイヤリティ支払い額)を加算して算出。一方、日本は海外地域からのロイヤリティ収入を減算し算出

海外地域の子会社は、ロイヤリティ収入に対して相応の額を売上原価として著作権所有者である日本の親会社へ支払い、それを親会社は売上高として計上しています。

海外事業の実質的な価値創造額を見るために、海外地域の子会社の営業損益に本社へのロイヤリティ支払い額を加算し算出した「貢献利益」をサンリオ独自の指標としています。

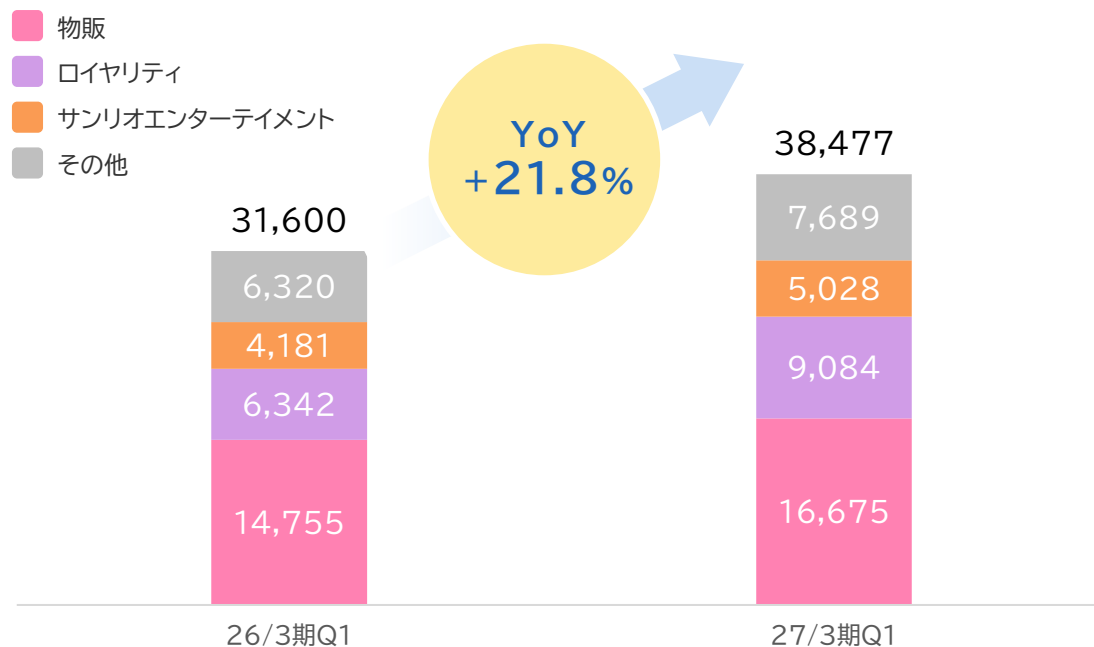


27/3期Q1日本セグメント実績(売上高・貢献利益)

幅広いキャラクター活用の進展と各事業における独自施策が奏功し、27/3期Q1は前年同期比で大幅な増収増益。貢献利益については、販管費予算の一部がQ2以降に期ずれすることから、想定よりは若干上振れ。拡大するキャラクター人気をベースに、物販事業とライセンス事業の好循環を通じて、持続的な事業運営を推進。

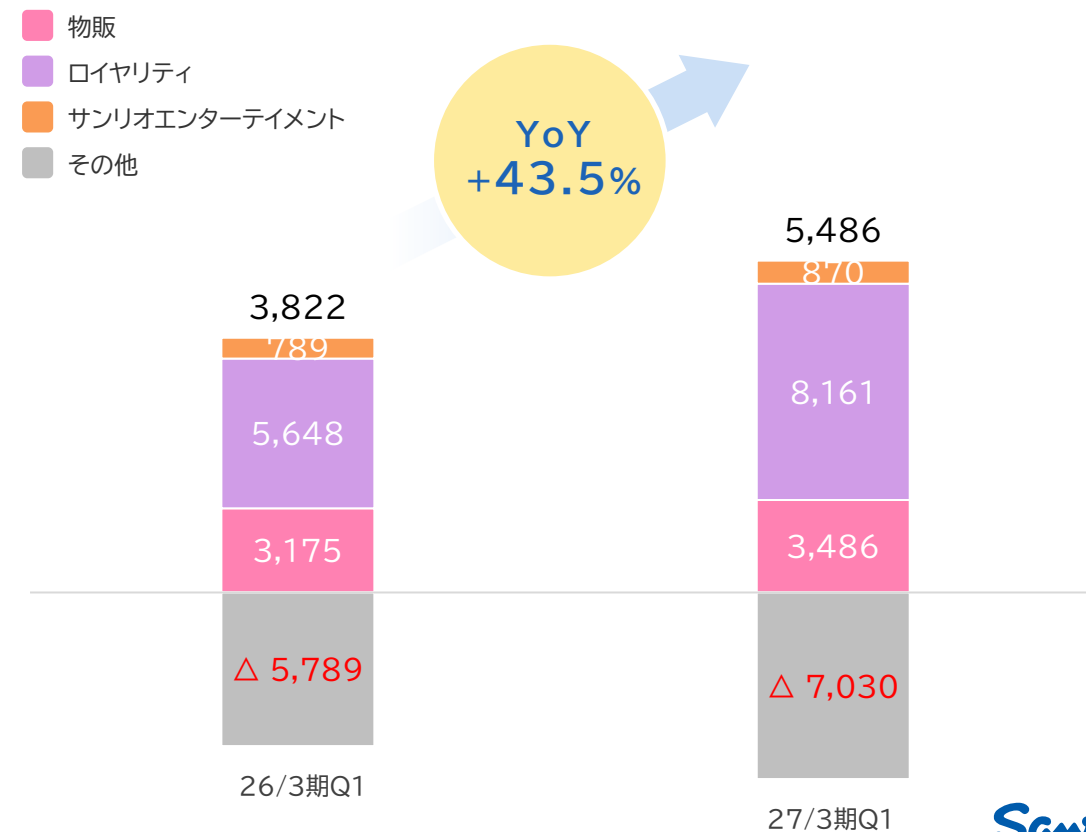
売上高

単位:百万円



貢献利益

単位:百万円



注) 百万円未満切り捨て、%小数点以下第2位四捨五入
 売上高は報告セグメントの売上高
 「その他」には、本社コスト、海外子会社から本社に支払われたマスターライセンス料の控除分、国内連結子会社も含む



27/3期Q1実績(日本)

実績

物販



商品力向上

店舗収益性向上

- **需要拡大**：サンリオオリジナル商品を含む新企画の商品をスピーディーかつ高頻度で投入し、継続的な需要創出と顧客ロイヤルティ向上を実現。特に、『ポムポムプリン』の**人気拡大**を受け、関連商品の販売が伸長。インバウンド売上比率は中国からの渡航者減少等の影響により低下した一方で、日本人顧客の来店増加により**客数はYoYで17%増加(※)**。
- **店舗展開**：高集客エリアでの**旗艦店オープン**を通じて、キャラクターの体験価値向上と効率化を推進。



サンリオ
オリジナル商品
シークレット
ちびっともシリーズ

ライセンス

キャラクターポートフォリオ
拡大

市場拡大

- **幅広いキャラクターの商品販売**：人気キャラクターに加え、多様な世代・嗜好に応じた商品およびライセンス展開を継続することで**顧客層が拡大し、収益成長を支える**。
- **接点拡大**：2026年サンリオキャラクター大賞の総得票数は過去最多の7,064万票を記録。**投票を通じたキャラクターとの接点拡大と認知向上に貢献**。ライセンシーあたりの収益性も向上。



2026
サンリオ
キャラクター大賞

テーマパーク



体験価値向上

収益機会拡張

- **集客力向上**：周年限定イベントやシーズンイベントの継続的な展開により、集客力および館内消費は前年を大幅に上振れる。両パーク合計の**客数はYoY+7%の34千人増加で514千人**。
- **館内消費の拡大**：イベントに連動した飲食メニューやグッズ販売商品は引き続き好調を継続。



POMPOMPURIN
30th
Anniversary
ポムポムすぎるよ展

注) 日本国内におけるサンリオショップ直営店、委託店、消化店で集計



27/3期Q1アジアセグメント実績(売上高・貢献利益)

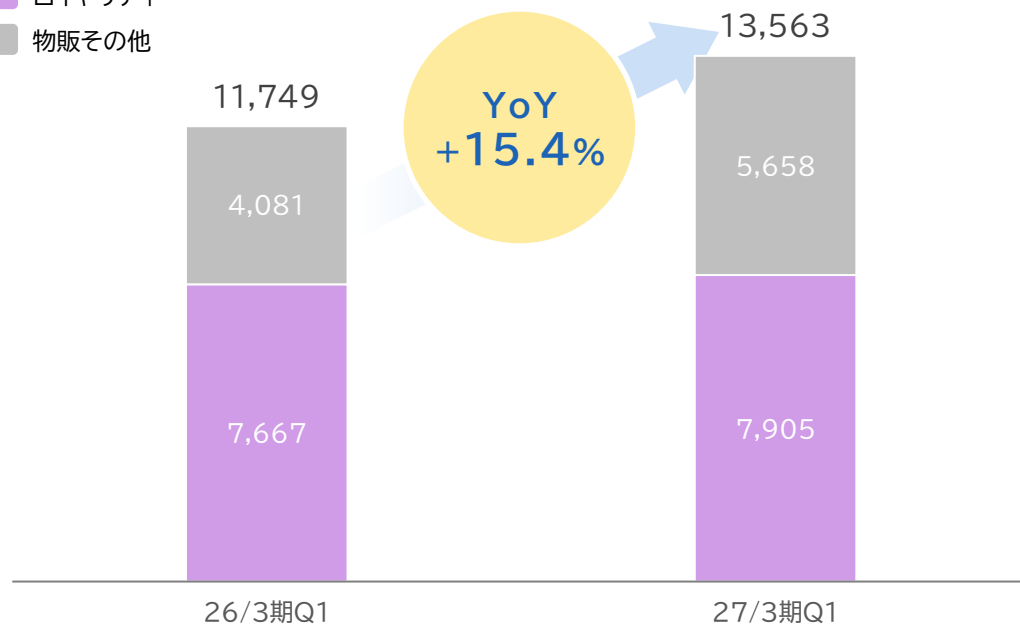
中国では、前年同期にロイヤリティ収入の計上期ずれによる一時的な上振れ影響があったため見かけ上の成長率は弱含むものの、ライセンス事業におけるカテゴリ拡張の進展を背景に、実力ベースでは好調継続。

物販事業においても新規店・既存店ともに好調に推移し、中国事業の成長基盤の強化が進捗。

売上高

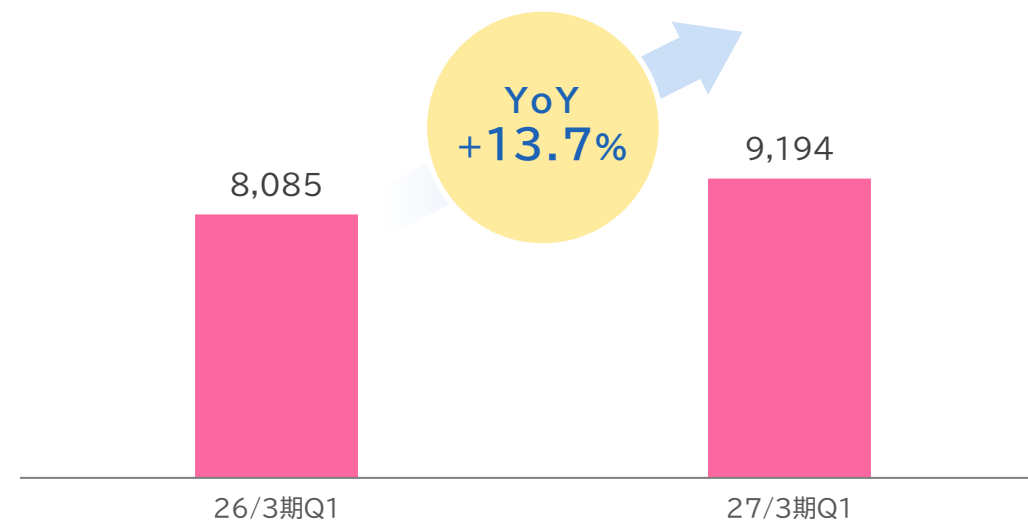
単位:百万円

- ロイヤリティ
- 物販その他



貢献利益

単位:百万円



注) 百万円未満切り捨て、%小数点以下第2位四捨五入。



27/3期Q1実績(中国)

物販



商品力向上

店舗収益性向上

ライセンス

キャラクターポートフォリオ
拡大

市場拡大

実績

- 独自の商品販売：中国地域限定商品の販売に加え、日本で成功を収めているスピーディーな商品供給体制を構築し、全店舗での収益性向上を推進中。
- 店舗網拡大：中国にて店舗数を62店舗※まで増加、サンリオキャラクター人気を背景に物販事業の売上高はYoY+125%※製造事業除く
- 幅広いキャラクター起用促進：『ハローキティ』が急伸長し業績貢献。キャラクターの構成比分散に向けて、他キャラクター育成を継続。
- カテゴリ拡張：玩具、家庭用品、フードカテゴリ等が着実に伸長。

Chongqing
The Ring
新店舗オープン

TOP TOY

注) 2026年3月末時点の店舗数、直営6店舗、フランチャイズ56店舗



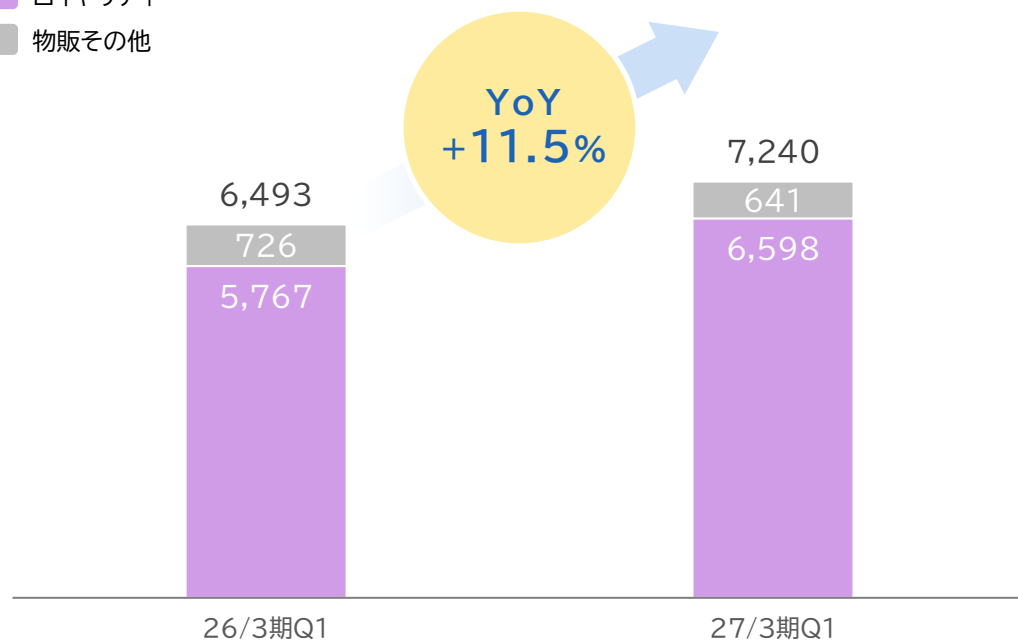
27/3期Q1北米・南米セグメント実績(売上高・貢献利益)

北米事業の売上高は、対前年同期での関税影響が続く中でもライセンシーの対応が進み、業績回復に向けて前進。
貢献利益は、事業基盤の強化に向けた人件費等の販管費増も、円安効果もあり増益。
キャラクターポートフォリオ拡大と市場拡大の両輪による成長戦略は順調に進捗。

売上高

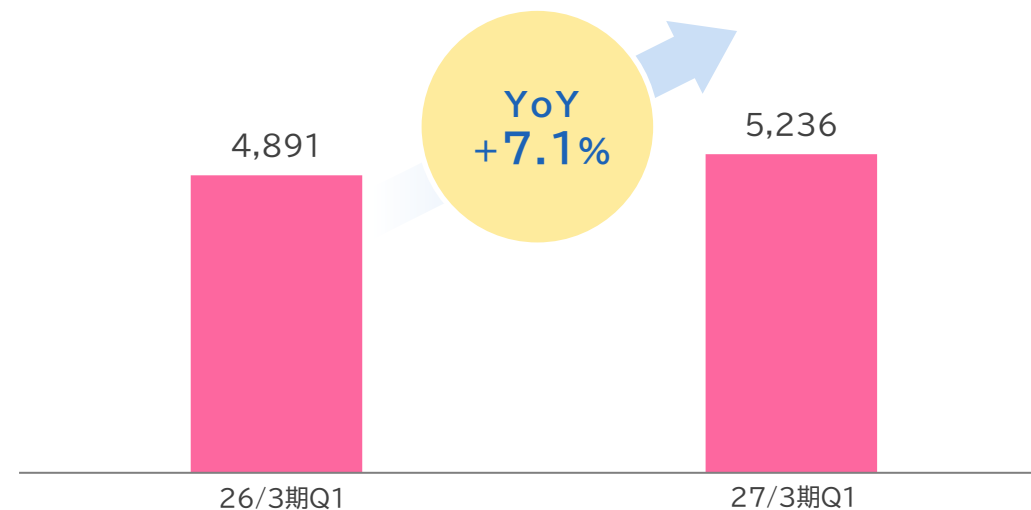
単位:百万円

- ロイヤリティ
- 物販その他



貢献利益

単位:百万円



注) 百万円未満切り捨て、%小数点以下第2位四捨五入。



27/3期Q1実績(北米)

ライセンス



キャラクター
ポートフォリオ
拡大

市場拡大

実績

- ライセンシーによる起用キャラクターの拡大：『HELLO KITTY & FRIENDS』の継続的な露出に伴い、複数キャラクターの起用が拡大。
- キャラクター育成：『クロミ』、『シナモロール』等の露出拡大により認知度が向上し、ライセンシーによるそれら単独キャラクターの採用も進展。
- カテゴリ拡張：玩具・アパレルなど既存の主要カテゴリは継続的に成長を拡大。世界各地に多数の店舗を持つライセンシーと様々なキャラクターで商品化を実現。注目度の高いハイブランドとのコラボレーションも推進。
- 接点拡大：未開拓地域である米国中西部シカゴに初の「HELLO KITTY CAFE」をオープン。多様なコミュニティや顧客層との接点づくりを開始。



MINISO
Hello Kitty®
and Friends
POP UP



HELLO KITTY
CAFÉ
Chicago



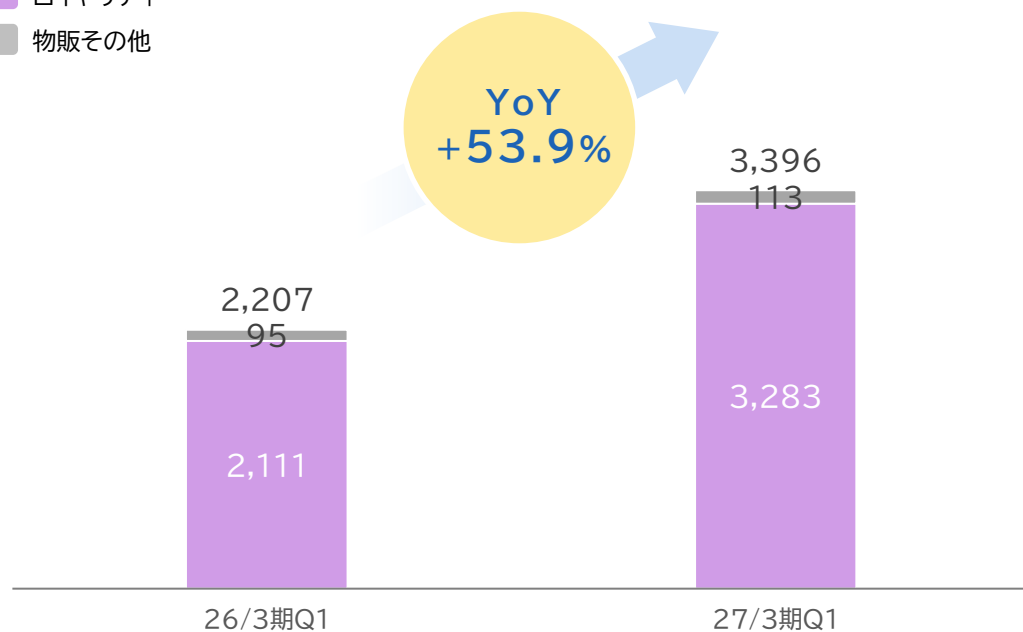
27/3期Q1欧州セグメント実績(売上高・貢献利益)

主軸のアパレルカテゴリを中心に幅広いライセンスーに取引が拡大したほか、『ハローキティ』以外のキャラクターの認知向上により、単独や複数キャラクターで起用される案件が拡大。グローバルブランドとのライセンス実績から育成される高いブランド価値を、玩具などの新規市場拡大への活用を企図。

売上高

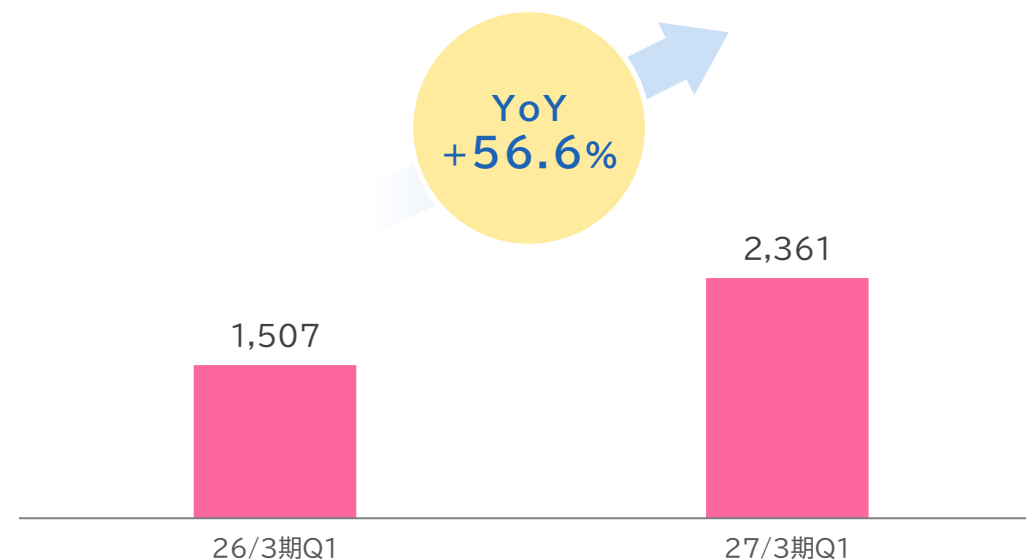
単位:百万円

- ロイヤリティ
- 物販その他



貢献利益

単位:百万円



注) 百万円未満切り捨て、%小数点以下第2位四捨五入。



27/3期Q1実績(欧州)

ライセンス



キャラクター
ポートフォリオ
拡大

市場拡大

実績

- 接点拡大：大手グローバルアパレルブランドの採用実績が他アパレルメーカーへの波及効果を創出。
- 複数キャラクター展開：『ハローキティ』以外の単独コレクションが発売されるなど、キャラクターポートフォリオの拡大を促進

- カテゴリ拡張：トルコ、イタリア、東欧等において前年同期比で増収増益。既存の主要カテゴリ(アパレル・玩具等)が継続的に拡大したことに加え、既存ライセンスによるサンリオキャラクターの商品化案件の更なる拡大が収益拡大に貢献。
- 新規市場開拓：インド最大級の小売企業Relianceグループが展開するアパレルブランド「AZORTE」40店舗でサンリオブランドコーナーの展開を実現。新規市場・顧客層の開拓に向けた取り組みを推進中。



WOMEN 'SECRET'×
HELLO KITTY
AND FRIENDS



BURGER KING×
HELLO KITTY
AND FRIENDS



インド発
アパレルブランド
「Azorte」内
サンリオ
ブランドコーナー

注) 欧州セグメントは、欧州現地子会社の管掌範囲に基づき、英国、欧州大陸だけでなく、オセアニアや一部アジア地域も含む

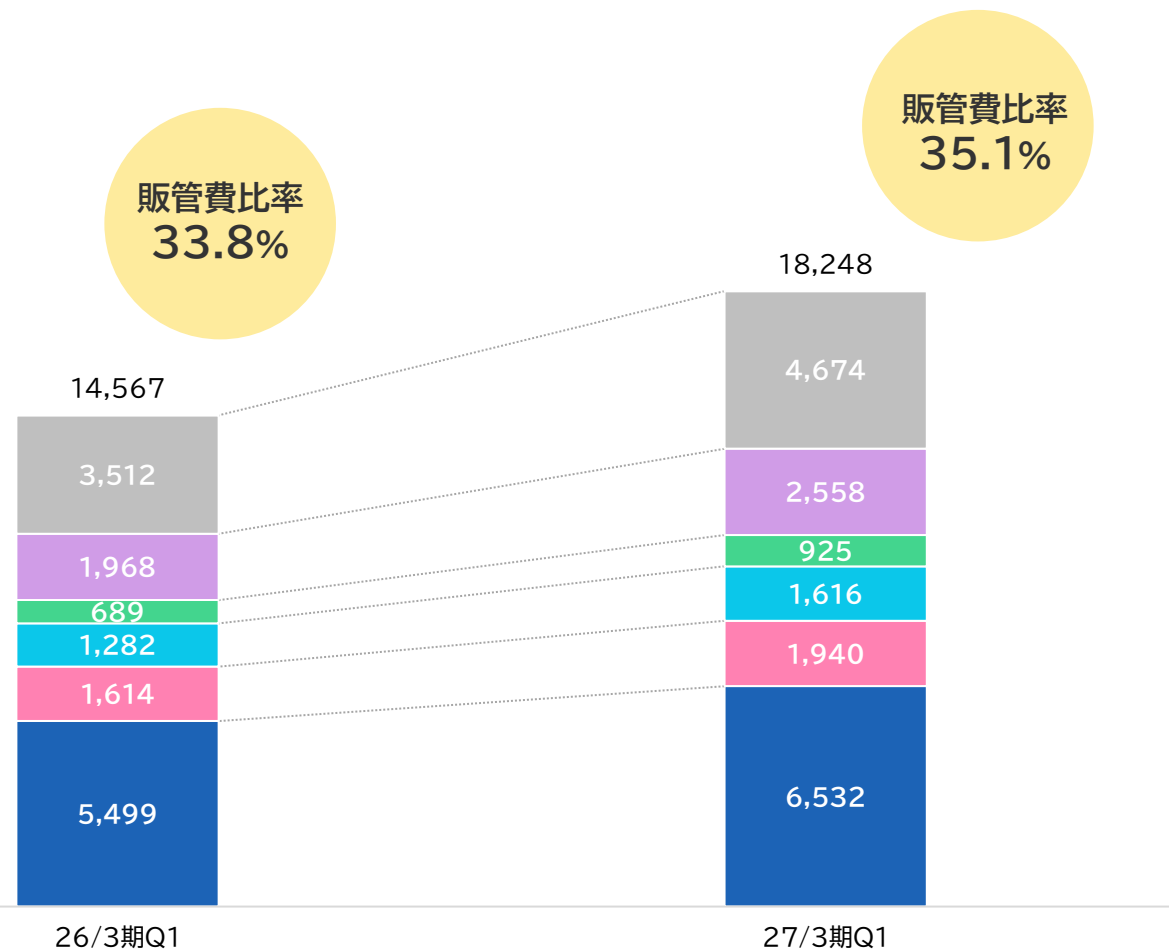


連結販管費の推移

- 売上高に対する販管費比率は、中長期的な成長に資する一定の水準を維持。
- 27/3期Q1は、前年同期比で事業基盤の強化・拡大のための人件費が増加したことに加え、グローバルでの幅広いキャラクターの浸透を目的とした戦略的マーケティング投資を実施。27/3期以降の利益成長につなげる。
- Q1で計上を想定していた販管費予算のうち約20億円がQ2以降に期ずれする見込み。通期の販管費見通しに変更なし。

売上高に対する販管費比率

単位:百万円



注) 百万円未満切り捨て、%小数点以下第2位四捨五入。



連結貸借対照表

単位:百万円

	26/3期	27/3期Q1	増減	YoY	増減要因
流動資産	168,567	179,154	+10,587	+6.3%	
現金及び預金	125,433	136,066	+10,632	+8.5%	「現金及び預金」106億円増など
その他流動資産	43,133	43,088	△45	△0.1%	
固定資産	66,117	68,559	+2,441	+3.7%	
政策保有株式	7,379	7,436	+56	+0.8%	
資産合計	234,684	247,713	+13,028	+5.6%	
流動負債	51,393	56,892	+5,498	+10.7%	
固定負債	27,319	27,445	+125	+0.5%	
(有利子負債)	13,938	12,564	△1,374	△9.9%	
負債合計	78,713	84,337	+5,624	+7.1%	
純資産	155,971	163,375	+7,404	+4.7%	「利益剰余金」63億円増など
負債・純資産合計	234,684	247,713	+13,028	+5.6%	
ネットキャッシュ	111,495	123,502	+12,006	+10.8%	
自己資本比率	66.4%	65.9%	△0.5pt	—	
政策保有株式/純資産	4.7%	4.6%	△0.1pt	—	

注) 百万円未満切り捨て、%小数点以下第2位四捨五入

政策保有株は非上場株含む。有利子負債に転換社債型新株予約権付社債を含む。

ネットキャッシュ = 現金及び預金 - 有利子負債



27/3期通期連結業績見通し(連結P/L)

通期見通しは前回公表から変更なし

単位:百万円

連結(PL)	26/3期	27/3期予想	増減率
	通期	通期	通期
売上高	194,088	229,800	+18.4%
売上総利益	150,062	178,600	+19.0%
売上総利益率	77.3%	77.7%	+0.4pt
営業利益	77,859	89,500	+15.0%
営業利益率	40.1%	38.9%	△1.2pt
調整後営業利益	78,453	88,800	+13.2%
経常利益	79,335	90,200	+13.7%
親会社株主に帰属する当期純利益	54,608	63,800	+16.8%

注) 百万円未満切り捨て、%小数点以下第2位四捨五入

為替レート

	26/3期実績	27/3期前提
米ドル/円	150円/USD	155円/USD
ユーロ/円	169円/EUR	185円/EUR
人民元/円	20.9円/CNY	22.5円/CNY

注) 主要な為替レートとして、米ドル/円、ユーロ/円、人民元/円を記載



Appendix

- 17 5か年ロードマップ
- 18 調整後営業利益について
- 19 用語集
- 20 その他のIR補足資料
- 21 将来見通し等に関する注意事項



5か年ロードマップ

	2026年3月期	2027年3月期	2028年3月期	2029年3月期	2030年3月期
アニバーサリー	50th Anniversary	30th Anniversary	25th Anniversary	15th Anniversary	55th Anniversary
	20th Anniversary	55th Anniversary	40th Anniversary	35th Anniversary	40th Anniversary
	50th Anniversary	30th Anniversary			
人気投票	キャラクター大賞	キャラクター大賞	キャラクター大賞	キャラクター大賞	キャラクター大賞
ゲーム		自社製作2本ローンチ		後続作品のローンチ	
			ライセンス案件を継続的に実施		
アニメーション	Netflixでマイメロクロミ		Alifishとの共同製作アニメ(ローンチ時期は現時点で流動的)		
			自社製作アニメ		
			ライセンス案件を継続的に実施		
SNS & YouTube	未就学児向けYouTubeチャンネル公開		シナモロールのYouTubeアニメ公開		
			TikTok・YouTube等にてオリジナルコンテンツを継続的に投入		
映画			共同製作映画の公開	ワーナー・ブラザース作品	
			ミスターメン リトルミスの映画(公開時期:未定)		
デジタル	Vビューランド常設化	大型IPワールド展開		Sanrio+を通じた新たなユーザー体験を提供	
	他社とのID基盤連携	Vtuber配信機能展開		ロイヤルカスタマー向けサービス強化	
リアル	ビューランド新パレード開始	シナモロールミュージカル公演		グローバル巡回型イマーシブLBE	
		ハーモニーランド「エンタメリゾート化」本格始動			
			スポーツイベントやカフェ等でのイベントを継続的に実施		

注) スケジュールは事前の予告なく変更になる場合があります。



調整後営業利益について

日本の親会社(3月期)と海外子会社(12月期)の決算期ずれによる連結調整影響を除いた営業利益のこと

- ✓ 日本会計基準において親会社と子会社の決算期の相違は3か月まで許容されている。
- ✓ 当社の連結営業利益は、26/3期通期の場合、親会社(2025年4月-2026年3月)と海外子会社(2025年1月-12月)の数値を合算したうえで、子会社から親会社へ支払われるロイヤリティについては親会社側の4-3月の受取金額(売上高)を基準として、子会社側の支払金額(売上原価)を連結消去する。その際の子会社側の支払ロイヤリティ金額は1月-12月の期間である。この際、親会社にて計上している売上高と子会社にて計上している売上原価(支払ロイヤリティ)の間に、期間差異による重要な不一致(大きな乖離)があった場合は、監査法人と議論のうえ、子会社の売上原価の調整を行い、営業利益を算出している。
- ✓ 昨今、北米・中国・欧州の海外子会社のライセンス取引が大幅に伸長しており、それにより当該調整額が大きくなっている。そこで、当社の事業実態をより適切に示すため、上記の親会社と子会社の決算期相違に基づく子会社の売上原価の調整を反映する前の営業利益を「調整後営業利益」として開示している。

Q1における調整金額

単位:億円

27年3月期Q1(連結)	営業利益	調整後営業利益
連結調整前	222	222
+連結調整	1	△2
(うち決算期相違に係る調整)	3	—
(うちその他連結仕訳)	△2	△2
利益	224	220

差分: 3

単位:億円

決算期相違による連結調整金額	FY3/2025				FY3/2026				FY3/2027
	Q1 (3か月)	Q2 (6か月)	Q3 (9か月)	Q4 (12か月)	Q1 (3か月)	Q2 (6か月)	Q3 (9か月)	Q4 (12か月)	Q1 (3か月)
北米(ライセンス)セグメント利益へのインパクト	△9	△19	△22	△15	6	△1	△8	1	0
欧州(ライセンス)セグメント利益へのインパクト	—	—	—	—	—	—	—	△14	△0
中国(ライセンス)セグメント利益へのインパクト	—	—	—	△25	4	9	11	△0	2
中国(製造)セグメント利益へのインパクト	5	7	14	2	9	12	16	7	0
連結計	△3	△11	△8	△38	20	20	19	△5	3

注) 億円未満切り捨て



貢献利益 こうけんりえき

- 海外事業の実質的な価値創造額を見るために、海外地域の子会社の営業損益に本社へのロイヤリティ支払い額を加算し算出した「貢献利益」をサンリオ独自の指標としている。
- 海外子会社は、ロイヤリティ収入に対して相応の額(約半分)を売上原価として著作権保有者である日本の親会社に支払い、親会社はそれを売上高として計上する。
- 貢献利益は海外地域の子会社の営業損益に本社へのロイヤリティ支払い額を加算し算出する。
- 2026/3期Q2より、決算説明資料における貢献利益の表示方法を変更し、決算期相違にかかる連結調整金額を控除した金額とする。また、過去のデータについても遡及的に修正表示。



その他のIR補足資料

統合報告書 2025

本報告書では、10年間の長期ビジョンやサンリオのIPが愛される仕組み、中期経営計画1年目の成果と展望などについてまとめています。



長期ビジョン

みんなを笑顔に導く灯台に

-Roadmap to a World of Smiles-

本資料では、当社の持続的な価値創出を軸に、長期的な視点での成長戦略を描いています。



最新のIR資料は
当社ウェブサイトをご参照ください



<https://corporate.sanrio.co.jp/ir/>

これまでの四半期業績推移については、
IR DATAへ移行しました。



将来見通し等に関する注意事項

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上でご利用ください。

また、業界等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。

この資料は2026年8月10日現在の情報に基づいて作成しております。